

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ハーモニー（テノール）	評価実施年月日	平成21年7月1日
評価実施構成員氏名	須藤 寛之 小笠原 ゆう子 十和田 礼子 佐藤 桂子 奥 五穂子 秋山 恵子 中村 美恵子 石川 直子		
記録者氏名	須藤 寛之	記録年月日	平成21年7月21日

北海道

は外部評価項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	宗教法人として独自の理念を作っている 理念については、わかりやすい言葉を使っている		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関前、フロア、エレベーター等に掲示し目につくようにしている 理念のもとケアしていると思うが、全職員に浸透はしていないと思われる	○	新人について、理念を教える機会を持たなかったので、新人教育の際は理念についても教えていく
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	面会者、家族等には来所時に目にふれる場所に理念を掲示したり、パンフレット等にも掲載 地域の方については、地域行事の参加を昨年以上に増やして理解をもとめている	○	地域行事の参加や清掃活動を行い、地域への理解をさらに深める働きをしている
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	私たちの方から進んで挨拶するよう心がけている 気軽に立ち寄ってはもらえていない	○	全館に笑顔で挨拶の重要性について文章を出し取り組んでいる
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内行事の参加は管理者が主体となり取り組んでいる	○	今年度より近所の公園清掃活動や施設周りの清掃活動を行っている
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域推進委員会でも検討し、町内の方や近隣の介護施設へ認知症についての研修会を開催 町内会役員と調整したり掲示板等を活用し広く参加を呼びかけた	○	一度きりにならないよう、今後も研修会を開催したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者と職員にて、より良い施設を目指す為、方向性を示し取り組んでいる		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	委員会で意見を聞きサービス向上に努めている 委員会は定期的に行われている	○	昨年より委員会で話し合われた内容を職員にも報告している
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	役所、保健所等の訪問を行ったり、市町村主催の勉強会へも参加している		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	外部、内部研修を行っている		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部、内部研修を行い、質の良いケアを提供している		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約はもちろんの事、施設見学等においても説明を行い、安心して入居等できるよう支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの意見等が職員にあったら、管理者へ報告し運営に反映している		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月1回の定期新聞にて報告や面会時の近況報告 また、健康状態により、その都度変化があれば報告している 受診前後についても報告している		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置や苦情対策委員会を設けている 苦情等については改善内容等を玄関前の掲示板に掲示している		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関して、職員の意見等を聞く機会は少ないが、以前よりは少しずつだが良くなっている	○	運営者と職員の意見交換の場を作りたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	出来る限り勤務調整を行っている ただ、職員数により限界もある		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職者があったが、ダメージがないよう職員は配慮し支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間研修スケジュールを立て、個々にあった研修を受講させている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協議会のスタッフ研修や当施設主催で勉強会を開催し交流を持つようにしているが、まだ機能していないと思う		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	特に取り組みはないと思われる		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	特に取り組みはないと思われる		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居の相談を行い、施設見学等をされ、安心して入居できるよう支援している		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居の相談を行い、施設見学等をされ、安心して本人が入居できるよう支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談時には出来る限り本人の望む生活が送れるよう聞き取りを行っている 介護サービス全般において、本人に適したサービスを助言している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の自宅へ行ったり、見学に何度か来てもらい馴染めるよう配慮している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員側の都合で介護するのではなく、心でお世話をしている 日々の生活において一緒に過ごし支えあって信頼関係を作っている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	急ぐ事ではなく、面会や電話等 自然に会話の中で構築され、良い信頼関係が出来ている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者、家族の思いを理解し、良い関係を築けるよう支援している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	出来る限り、なじみの人との交流や、なじみの場所へ行けるよう支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立する事がないよう雰囲気作りをしているが、自己主張が強い方もいるので、その時々によりフロアの空気が変わるときもある		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所されても手紙や電話でつながりがある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り本人の希望に添えるよう支援している また家族も協力してくれる		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前は本人、家族へ聞いている 入居後は生活の中で会話等から聞き過ぎしやすいよう支援につなげている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の申し送りや介護記録にて把握している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人主体である 本人、家族、ケアしている職員の意見を聞き介護計画に反映している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	身体、精神状況により、その都度介護計画を見直している		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録、申し送り等に記載 チーム全員が同じケアが出来るようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居相談などの際、本人に適したサービスを検討し、地域包括センターや隣接のデイサービスの利用など広く検討されている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の交番に情報提供を行って非常災害時等の際、協力してもらえるよう働きかけている また、中学生の職場体験学習の受け入れを行い、交流の機会を持っている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	前例なし		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居相談や困難事例について、相談を行っているが頻度は少ない		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	本人希望される病院はもちろん、連携医療機関による往診があり、適切な医療を受けられるよう支援している		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期的に受診、往診を行い、信頼関係を作り相談等が出来るように支援している		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	6月より看護師を配置し日々の健康管理や医療面について相談出来るようにした また、往診に来られる医療機関の看護師とも信頼関係が出来ているので相談しやすく、入居者の良いケアにつなげている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の際は介護添書等により施設での過ごし方等の情報提供を行い、安心して入院治療が出来るように支援している また出来る限り入院先にお見舞いに行き、本人の様子や退院後の支援について医師や看護師と相談している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	かかりつけ医や家族と話し合いの場を作り、終末期ケアについて方向性の共有を図り、職員についても同様、チーム全員で良いケアを目指している ただ、個々に死に對し不安はある		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	出来る事、出来ない事については、見極める事は困難である 個々に違うケアなので、その都度、医師や家族と協議し支援している チームでケアするので、情報の共有等をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居中の過ごし方や起こりうるリスク等を家族と話し合い支援している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉かけや対応について、個々にあった支援をしている まれに、記録等が入居者の目の届くところにある	○	記録記載の際、周囲をしっかりと把握する あくまでも生活の場である事に注意しケアしていく
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	生活の中で出来る限り自己決定の場を作り出している 家事では盛り付けや皿を選んだり、買い物等、さまざまな場面で本人の確認を行い自己決定の場を作り出している		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り本人のペースで過ごせるよう支援している 急な受診、外出等で希望に添えない場面もある		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人のなじみの床屋へ行かれている また、近所の美容院が来られる事もある		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者と職員が一緒に食事準備等を行っている 家族が釣ってきた魚を本人が調理する場面もある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師の指示等にもよるが、出来る限り、本人の嗜好に合わせ支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	水分、排尿、排便をチェックし排泄パターンを把握している 勉強会等も開催し支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日は決めている 時間帯については午後からとなっている 入浴を楽しめるまでには至っていない		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜逆転にならないよう配慮し、一人ひとりのペースで過ごせるよう支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	自立されている方は生活の中で自然と役割が出来ている 個々にあった役割、気晴らしの支援をしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人、家族と話し合いを持ち、自分で管理されている方がいる スーパー等で買い物もされている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	全ての希望に添えてはいない 受診等により職員手薄になる事もある為 出来る限り希望に添えるようにしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	会話の中で行きたい場所やなじみの場所をさりげなく聞き出し、個別レク等により支援している 頻度としては少ない		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族、親族等のつながりは大切であるので、電話しやすい環境整備や手紙代筆等の支援を行っている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	笑顔でおもてなしを行い、ゆったり過ごしてもらえるよう配慮している		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修等を行い、身体拘束しないケアを心がけている 身体拘束は絶対にあってはならないものだと、職員は意思統一している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は玄関の鍵をかけている 日中はいっさい鍵をかけていない センサーを使用している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	鍵をかけないで出入り口にはセンサーを設置している 自立度が高い入居者が多いのでさりげなく様子確認を行っている 夜間は巡回、身体状況、歩行状況の確認を行い安全に配慮し支援している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	台所の包丁や洗剤等は目の届かない場所に置いている	○	包丁等に関しては適切な保管が必要である 早急に検討したい
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々に身体状況が違う、また就寝薬で睡眠剤服用されている方もいるので、個々に合わせたセンサーや巡回を行い、見守りや介助にて支援している 起こりうるリスクについてもその都度検討して支援している また、各種マニュアルがある		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に訓練は行っていないが、職員は普通救命講習を受講している またマニュアルもある ただ、急変時等の場合は心配である		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時のマニュアルがあり、消防訓練についても年2回行われている 地域交番や運営推進委員会で協力要請も話されているが、心配である		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	身体、認知状況を把握し起こりうるリスクについて職員と検討し家族と話し合いの場を作っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	顔色、声、しぐさ等の観察を行い、その日の様子を朝、夕の申し送りを行い、変化があれば、管理者や主治医へ連絡し支援している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	以前は全職員が把握出来ていなかったが、薬の資料、記録を改善し、現在は全職員が把握している また、薬についての理解についても同様である 管理についても徹底している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々に合わせた対応を検討し支援している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自立度が高い方が多いが、必要な方には口腔ケアをしている		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分の把握をしている 個々に合わせ、水分形態や代替の食事等で対応し支援している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染のマニュアルがあり、流行時期前に改めてマニュアルを確認している 温度、湿度のチェックや定期的に手すりや便器等へ除菌を行っている かぜ等感染拡大を防ぐ為、各階の状況報告を密にしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	チェック表にて定期的にまな板、フキン、台所まわりの除菌を行っている 冷蔵庫等についても不定期だが清掃を行っている また、食事担当者会議を開催し食中毒警報を流したりしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前はテント、テーブル、イスを配置している 若干だが花もあり 建物裏では小さいが畑がある	○	来年は玄関前にもう少し花を置き雰囲気作りをしたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾ったりして、ゆったりできるよう配慮している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ゆったり過ごせるようソファの配置や夏には玄関前にテーブル、イス配置している		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	それぞれなじみの物を持ち込まれている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度、湿度のチェックを定時に言い管理している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリー対応であるが、一部、手すり等必要な場所がある	○	今後、必要最低限の手すり設置を図りたい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ、洗面所、風呂等 わかりやすいように看板を設置している		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前にはテントを設置しくつろげるスペースを作っている また裏には畑がある 隣接にはお寺があり、散歩コースになっている		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	②利用者の2／3くらい 入居者の思い願いを重視する事はもちろんであるが、業務に追われている時があり、その時は職員のペースになる
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	②数日に1回程度ある ほぼ毎日、ゆったり過ごしている場面があるが、もう少しゆとりを持ちたいと思う
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 出来る限り本人の意思を尊重し個々のペースで過ごしてもらうよう配慮している
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	②利用者の2／3くらい
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	②利用者の2／3くらい 全ての希望箇所へは無理だが、外出の機会を作っている　ただ、車イスの方は外出頻度が少ない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 受診同行や週2回の往診、看護師配置しているので、安心されている方が多い
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 出来る限り本人の意思を尊重し要望に答えるようにしている
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	②家族の2／3くらい 信頼関係については誠心誠意を持って対応している
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③たまに 以前よりは増えてきているが、少ないと思う

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	②少しずつ増えている 積極的に町内行事の参加や公園清掃活動等を行い、地域への貢献を行って、相互理解に努めている
98	職員は、生き生きと働けている	②職員の2／3くらい
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	②利用者の2／3くらい
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	②家族等の2／3くらい
【特に力を入れている点・アピールしたい点】 （日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載） 他と比べる必要もなく、入居者と一緒に楽しく安心して過ごせる事を考えケアにつなげています		